

92	<b>事業計画</b>	
	公益財団法人 日本測量調査技術協会 平成 26 年度事業計画	92
94	<b>事業報告</b>	
	地理情報標準・地理情報 JIS の動向	94
	検定推進センター 測量成果検定業務	98
102	<b>トピックス</b>	
	第 36 回測量調査技術発表会・特別講演 開催報告	102
	第 38 回 ISO/TC 211 ベルリン総会開催状況	104
	平成 26 年度 地理情報標準認定資格 講習・試験 実施報告	105
	測量成果(地図)品質向上講習会 開催報告	107
	平成 26 年度 地区事業委員会・社会動向講演会開催計画	109
	地理情報標準認定資格 (S-GI-Cert) 特別講習を開催	110
	投稿カード … 113	発行図書案内 … 116
	CPD … 114	評議員・役員・委員会・部会・WG・GISセンター等名簿 … 117
	入会案内 … 115	会員名簿 … 124

デジタル画像の新たな補正技術／朝日航洋株式会社

空中写真を撮影するための航空測量用カメラは、従来の銀塩フィルムを用いたアナログ方式から、イメージセンサーを用いたデジタル方式が主流となってきた。これらに搭載されるイメージセンサーの高性能化によって、デジタル画像のピクセル深度が8ビットを越える高ダイナミックレンジ画像を撮影できるものが一般的となりつつあり、わずかな明暗を詳細に記録することができてはいたが、従来の撮影後の画像調整処理では暗部の情報が失われやすい問題があった。朝日航洋ではこういった問題を解決すべく、高ダイナミックレンジ画像のコントラスト補正処理技術を独自に開発し、現在は極端に明るい部分と暗い部分の両方が見やすい画像製品を提供している。(当技術は特許出願中)

上段 (左は通常処理画像・右は補正処理画像)  
市街地などでは密集する建築物によって発生する影領域が判読の妨げとなるが、補正処理によって影内部の状況が見やすくなっている。

中段 (左は通常処理画像・右は補正処理画像)  
海域や河川などの浅部水域では、水底からの弱い反射光が捉えられていても、画像全体では地表の明るさに露出を合わせるために黒つぶれ状態となってしまう。補正処理を加えると水底が明瞭となりつつ、もともと明るかった地表部分も白とびせずに見やすい画像となった。

下段 (左は通常処理画像・右は補正処理画像)  
山間部では地形による影が発生し、特に谷筋の判読がしづらい状況が多いが、補正処理結果では谷底(崩壊地)の倒木の様子が読み取れるようになっている



©朝日航洋株式会社